

【草花の部屋】

ドイツスズラン（キジカクシ科スズラン属 Convallaria majalis var. majalis）

和名：ドイツスズラン（独逸鈴蘭） **別名**： **英名**：Lily of the valley

キジカクシ目 多年草 **原産地**：ヨーロッパ

花言葉：純潔、純愛、幸福の再来

花の色：白



← 写真-1 ドイツスズラン

撮影日：2004年04月27日

撮影場所：M邸(大和郡山市)にて

撮影者：Mさん

いつ頃からか、我が家の片隅で、毎年、可憐な花を咲かせています。毎年、広がるのを抑制してきましたが、最近は放任。

葉の脇から花茎を立て、十数個の白い鐘形の花を総状につけます。花の長さは10ミリくらい、花径は10ミリ～15ミリくらいで、短い柄があり、花被片はつけ根の部分で合着しています。葉は卵状の楕円形で、2～3枚が根際から出てつけ

根の部分は茎を包んでいます。日本に自生する在来種の鈴蘭（スズラン）と比べて耐暑性があり、大型で香りも強く、花が葉の陰に隠れないなどの特徴があります。そのため、市場に流通するものはほとんどが本種だそうです。

日本の野生の種は花が葉の下につきますが、栽培されているヨーロッパ原産のドイツスズランは花が葉と同じ高さに咲きます。日本原産のスズランは本州中部以北のほか、朝鮮半島、中国に分布します。葉に隠れるようにひっそりと咲き、主に山野草として扱われますが、高温多湿に弱くてやや育てにくく、流通は多くないそうです。

スズランは、心配糖体のコンバラトキシン (convallatoxin)、コンバラマリリン (convallamarin)、コンバロシド (convalloside) などを含む有毒植物。有毒物質は全草に持ちますが、特に花や根に多く含まれます。摂取した場合、嘔吐、頭痛、眩暈、心不全、血圧低下、心臓麻痺などの症状を起こし、重症の場合は死に至るそうです。北海道などで山菜として珍重されるギョウジャニンニクと外見が似ていることもあり、誤って摂取し中毒症状を起こす例が見られるそうです。また、スズランを活けた水を飲んでも中毒を起こすことがあり、これらを誤飲して死亡した例もあるそうです。

<ちょっと一言>

スズラン(キジカクシ科スズラン属 *Convallaria majalis* var. *keiskei*)

和名：スズラン(鈴蘭)

別名：君影草 (きみかげそう)、谷間の姫百合 (たにまのひめゆり)

原産地：日本

山地や高原の草地に生える多年草。葉は2個根生し、長楕円形で長さ10～18cm、裏面は粉白色を帯び、基部は長い鞘となります。花茎は高さ20～35cm、葉柄基部の鱗片葉の葉腋から立ち、葉より低い。10個ほどの花を総状につけ、花は白色、広鐘形で直径約1cm、先端は6裂して反り返り芳香があります。